安全データシート

ARC HT-T (Part B)

JIS Z 7253 : 2019に準拠
作成日: 2026/06/18　改訂日: 2026/06/18　バージョン: 1.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ARC HT-T (Part B)
製品コード : 434B-7a

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : ARC ポリマー複合材料は、温水および蒸気環境向けの耐食性コーティングを形成するため ARC HT-T（パート A）と混合して使用する。

会社情報

仕入先

A.W. Chesterton Company
01834-1507
USAGroveland, MA860 Salem Street
T +1 978-469-6446 (Mon. - Fri. 8:30 - 5:00 PM EST) - F +1 978-469-6785
productsdss@chesterton.com - www.chesterton.com

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 24時間365日
Call Infotrac: 1-800-535-5053
Outside North America: +1 352-323-3500 (collect call)
Response is expected to be in Japanese

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分3
	皮膚腐食性／刺激性	区分1B
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖毒性	区分1B
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分2 (中枢神経系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分2 (腎臓, 中枢神経系, 眼, 肝臓, 筋肉, 消化管)
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分2
	水生環境有害性　長期（慢性）	区分3

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)

注意喚起語 (GHS JP) : 危険

安全データシート

ARC HT-T (Part B)

JIS Z 7253 : 2019に準拠

危険有害性 (GHS JP) : 飲み込むと有毒 (H301)
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314)
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ (H334)
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
臓器の障害のおそれ (中枢神経系) (H371)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
(腎臓、中枢神経系、眼、肝臓、筋肉、消化管) (経口) (H373)
水生生物に毒性 (H401)
長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
[換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。 (P284)

応急措置 : 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。(P301+P330+P331, P310)
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。(P363)
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P333+P313)
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。(P342+P311)
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)

保管 : 施錠して保管すること。 (P405)

廃棄 : 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。 (P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

名前	濃度 (%)	化学式 (上書き)	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
ホルムアルデヒド・ベンゼンアミン重合物（水素添加物	38.804 – 67.907	Unspecified	-	12-928	135108-88-2
4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン)	29.103 – 58.206	C13H26N2	(3)-2272;(4)-101	(4)-101;(3)-2272	1761-71-3
ジエチレントリアミン	2.04	C4H13N3	(2)-159	(2)-159	111-40-0

名前	濃度 (%)	化学式 (上書き)	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
フタル酸ジノニル	0.96	C26H42O4	(3)-1307	(3)-1307	28553-12-0

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般 : ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

吸入した場合 : 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が止まった場合は、人工呼吸を実施する。
呼吸が困難な場合は酸素を与える。
直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 : 皮膚（又は髪）に付着した場合、直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
ただちに医師に連絡すること。

眼に入った場合 : 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 : 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 : 臓器の障害のおそれ (中枢神経系)。

症状/損傷 吸入した場合 : 呼吸器系への火傷を引き起こす。
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ。

症状/損傷 皮膚に付着した場合 : 重篤な皮膚の薬傷。
症状には、赤み、痛み、水疱などがあります。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

症状/損傷 眼に入った場合 : 重篤な眼の損傷。
症状には、不快感や痛み、過剰なまばたきおよび流涙があり、赤みや腫れなど伴うことがあります。
火傷を起こすことがある。

症状/損傷 飲み込んだ場合 : 飲み込むと有毒。
胃腸の炎症、吐き気、嘔吐、下痢を引き起こすことがある。
口、喉、消化管組織に火傷または炎症を引き起こすことがある。

慢性症状 : 生殖能または胎児への悪影響のおそれ。
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
(腎臓、中枢神経系、眼、肝臓、筋肉、消化管) (経口)。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療 : 症状は遅発性のことがある。
事故が起きたとき、あるいは気分が悪い場合、直ちに医師の診察を受けること。(できればﾗﾍﾞﾙを見せる)。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 二酸化炭素 (CO2)、粉末薬品、水溶性液体用泡消火薬剤

使ってはならない消火剤	: 知見なし
火災危険性	: 燃焼生成物には、炭素酸化物が含まれることがありますが、それに限定されません。 アンモニア。 有毒な窒素。
消火時の保護具	: 風上に保管して下さい。完全消化ターンアウトギア（フルバンカーギア）と呼吸保護（SCBA）を着用してください。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置	: セクション8で推奨されている個人用保護具を使用してください。危険区域を隔離し、関係のないおよび保護されていない人が入ることを禁じてください。

非緊急対応者

応急処置	: 漏出した製品に接触することもその上を歩くこともしないこと。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	: 下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	: 安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。 流出した製品は、不活性物質（砂、バーミキュライトやその他の適切な物質）に吸収・収容した上で適した容器に入れてください。。 表層水、または下水に流さない。 推奨される個人用保護具を着用する。
浄化方法	: 漏出物は掃くまたはシャベルですくって適切な容器に封じ込め廃棄に備える。 換気を行ってください。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	: 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 容器の開封および取り扱いは注意して行う。 使用中は飲食、喫煙しないこと。 飲み込まないでください。 粉じん、ヒューム、気体、ミスト、スプレー、蒸気を吸入しないこと。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
衛生対策	: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 取扱い後は、手、前腕、顔を入念に洗ってください。

保管

安全な保管条件	: 子供の手の届かない場所に保管すること。 容器を密閉しておくこと。 涼しく乾燥した換気が十分に行われている場所に保管する。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	: データなし

8. ばく露防止及び保護措置

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
アメリカ合衆国 - ACGIH® - Threshold Limit Values	
ACGIH® TLV® TWA	1 ppm
ACGIH® 化学カテゴリー	皮膚 - 皮膚経路による全体的なばく露への潜在的重大な寄与
日本 - ばく露限界値	
許容濃度(ACGIH®)	TWA 1 ppm,STEL - (Skin)

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。
洗眼器と安全シャワーを作業場の近くに設置すること。

保護具

呼吸用保護具 : 有機ガス用吸収缶付き呼吸用保護具を使用すること。呼吸用保護具の選択は、既知または予測される暴露レベル、製品の危険性および選択した呼吸用保護具の安全使用限界に基づいて行うこと。安全データシート（SDS）は、詳細かつ完全な呼吸用保護具の指針を提供するものではありません。呼吸用保護具の選択は、作業環境を評価した有資格者が行わなければなりません。

手の保護具 : 適切な耐薬品性手袋を着用する、素材の適合性や素材の厚さについては、手袋メーカーの製品情報をご参照ください。
、下記の成分を含むため、手袋の使用を推奨します：ネオプレーン、ニトリル

眼の保護具 : 眼／顔面用保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

その他の情報 : 産業衛生および安全手順に従って処理する。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
外観	: 粘性、液体
色	: 青色
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: > 215 °C
引火点	: > 100 °C
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: 不燃性
蒸気圧	: データなし
相対蒸気密度 (20°C)	: > 1
相対密度	: 1.019 kg/L
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: ほとんど溶けない。
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
爆発限界 (Vol-%)	: データなし

粘性率	: 2400 cP (25°C)
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 裸火。高い温度。混触危険物質。
混触危険物質	: 無機酸。強力な酸化剤（塩素、酸素）。
危険有害な分解生成物	: 炭素酸化物を含むことがありますが、それに限定されません。アンモニア臭。有毒な窒素。

11. 有害性情報

その他の情報	: 可能性が高いばく露経路： 経口摂取、吸入、皮膚や目
急性毒性 (経口)	: 飲み込むと有毒
急性毒性 (経皮)	: データなし
急性毒性 (吸入)	: データなし

ARC HT-T (Part B)	
ATE JP (経口)	66.085 mg/kg BW

Formaldehyde, polymer with benzenamine, hydrogenated (135108-88-2)	
LD50 経口 ラット	50 – 300 mg/kg BW Animal: rat, Animal sex: female, Guideline: OECD Guideline 423 (Acute Oral toxicity - Acute Toxic Class Method), Guideline: EU Method B.1 tris (Acute Oral Toxicity - Acute Toxic Class Method)
LD50 経皮 ウサギ	> 1000 mg/kg (Source: ECHA_API)

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】(1)、(2) より、区分4とした。【根拠データ】(1) ラットのLD50: 380 mg/kg (SIDS (2016)、REACH登録情報 (Access on October 2019))(2) ラットのLD50: > 670～ < 1,000 mg/kg (SIDS (2016)、REACH登録情報 (Access on October 2019))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】(1)、(2) より、区分に該当しない。【根拠データ】(1) ウサギのLD50: 2,110 mg/kg (SIDS (2016))(2) ウサギのLD50: > 1,000 mg/kg、死亡例なし (SIDS (2016))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】GHSの定義における固体であり、ガイダンスの分類対象外に相当し、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
LD50 経口	380 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	2110 mg/kg BW Animal: rabbit, Guideline: EPA OPP 81-2 (Acute Dermal Toxicity)
LD50 経皮	2110 mg/kg

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
急性毒性 (経口)	ラットを用いた経口投与試験のLD50値 1,080 mg/kg（（ACGIH（7th, 2001）、（環境省リスク評価第11巻（2013）、（PATTY（6th, 2012））、約1,140 mg/kg、1,539 mg/kg、約1,800 mg/kg、1,950 mg/kg（SIDS（2002））に基づき、区分4とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値は、約672 mg/kg、1,040 mg/kg（SIDS（2002））、1,090 mg/kg（ACGIH（7th, 2001）、環境省リスク評価第11巻（2013））であり、1件が区分3、2件が区分4に該当する。これらのデータから分類ガイダンスに基づき、該当数の多い区分4とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHSの定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。なお、旧分類の根拠である環境省リスク評価第11巻（2013）の結果は「LDLo」であったため不採用とした。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	1080 mg/kg (Source: JAPAN_GHS)
LD50 経口	1080 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	672 mg/kg (Source: JAPAN_GHS)
LD50 経皮	1040 mg/kg
LC50 吸入 ラット	70 mg/l/4h

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
急性毒性 (経口)	ラットのLD50値として、> 9,800 mg/kg (EU-RAR (2003)、食品安全委員会 (2015)、HSDB (Access on August 2016))、> 10,000 mg/kg (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012)、PATTY (6th, 2012)、食品安全委員会 (2015)、HSDB (Access on August 2016))、> 40,000 mg/kg、> 50,000 mg/kg (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012)、食品安全委員会 (2015)) との4件の報告に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギのLD50値として、> 3,160 mg/kg (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012)、PATTY (6th, 2012)、食品安全委員会 (2015)、HSDB (Access on August 2016)) の報告に基づき、区分外 (国連分類基準の区分5) とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHSの定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。ラットのLC50値 (4時間) として、> 0.067 mg/L、> 0.07 mg/L (EU-RAR (2003)、食品安全委員会 (2015))、> 4.4 mg/L (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012)、食品安全委員会 (2015)) の3件の報告があるが、これらの値のみからは区分を特定することができないため、分類できないとした。なお、これらのLC50値は飽和蒸気圧濃度 (11.2 ng/L) より高いため、ミストとしてmg/Lを単位とする基準値を適用した。
LD50 経口 ラット	> 9750 mg/kg (Source: NLM_CIP)
LD50 経口	50000 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	> 3160 mg/kg (Source: ECHA_API)
LD50 経皮	3160 mg/kg
LC50 吸入 ラット	> 4.4 mg/l/4h

皮膚腐食性／刺激性 : 重篤な皮膚の薬傷

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
皮膚腐食性／刺激性	政府による分類では以下の理由により「区分1B-C」であるが、NITEにより区分1Bとした。【分類根拠】(1)～(3) より、区分1B-Cとした。【根拠データ】(1) OECD TG 404に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験で3分間ばく露では1時間後の観察で壊死は認められなかったが、24時間後の観察では1/3例に壊死がみられた。2.75時間のばく露では、1時間後までに壊死を生じた (REACH登録情報 (Access on November 2019))。(2) 本物質は皮膚や眼に対し、強度の刺激性から腐食性を有すると考えられる (GESTIS (Access on September 2019))。 (3) 本物質の類似化合物は全て腐食性物質であることから本物質も腐食性と考えられる (SIDS (2016))。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
皮膚腐食性／刺激性	環境省リスク評価第11巻（2013）、NITE初期リスク評価書（2005）のヒト健康影響についての記述、及びウサギを用いた皮膚刺激性試験結果の「強い腐食性」、「腐食性」との記述（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002））がある。さらに、本物質は、EU DSD分類において「C; R34」、EU CLP分類において「Skin Corr. 1B H314」に分類されている。以上の情報に基づき区分1とした。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの皮膚刺激性試験 (OECD TG 404、4時間貼付) では、24時間後にごく軽度の紅斑 (スコア1) がみられたが48時間後には消失した。24時間閉塞適用した過酷条件の試験でも一過性の軽度の紅斑、浮腫が発現したが、速やかに消失しており、いずれも平均スコアは1.0を下回っていた (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))。また、ボランティアによるヒトのパッチテストでも皮膚刺激性は認められなかった (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))。これらの結果から皮膚刺激性はごく軽度と結論されており (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 重篤な眼の損傷

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	【分類根拠】(1)～(4) より、区分1とした。【根拠データ】(1) 本物質 (0.01 mL) をウサギの眼に適用した眼刺激性試験で、角膜の瘢痕、炎症、水晶体の混濁等が観察され、腐食性物質と判定されている (REACH登録情報 (Access on November 2019))。 (2) 本物質は皮膚や眼に対し、強度の刺激性から腐食性を有すると考えられる (GESTIS (Access on September 2019))。 (3) 本物質は腐食性を有すると考えられる (SIDS (2016))。 (4) 本物質は皮膚腐食性 (区分1) に分類されている。
pH	11.6 Temp.: 25 °C

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ヒト健康影響のデータ（環境省リスク評価第11巻（2013）、ACGIH（7th, 2001））、及びウサギを用いた眼刺激性試験で原液を投与した試験結果（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002））において、「強度刺激性」「強腐食性」「視力喪失」との記述がある。さらに、本物質は皮膚腐食性物質であり、EU DSD分類において「C; R34」、EU CLP分類において「Skin Corr. 1B H314」に分類されている。以上の情報に基づき区分1とした。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
pH	12 (conc: 100 g/L (DTA in water)

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギの眼刺激性試験 (OECD TG 405)では、1時間後にごく軽度から中等度の結膜潮紅 (スコア4.3) がみられたが、24時間後には軽減し (スコア0.33)、以降は消失した。その他、ウサギの眼刺激性試験 (2試験) においても、一過性の結膜発赤あるいは分泌物がみられたが、48時間以降は消失した (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))。これらの結果から眼刺激性はごく軽度と結論され (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))、区分外とした。

呼吸器感作性 : 吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
呼吸器感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
呼吸器感作性	ヒトに対する健康影響のデータとして、職業ばく露による気道に対するぜんそく様のアレルギー反応の発症が報告されているとの記述（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002）、ACGIH（7th, 2001））との記載から、呼吸器感作性があると考えられるため、区分1とした。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。

皮膚感作性 : アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
皮膚感作性	【分類根拠】(1)、(2) のデータはあるが、分類に十分なデータはなく、分類できないとした。【参考データ等】 (1) モルモットを用いた皮膚感作性試験において弱い感作性物質と判定された (REACH登録情報 (Access on November 2019)。(2) 本物質の類似化合物は感作性を示さないことから本物質も感作性を有しないと考えられる (SIDS (2016))。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
皮膚感作性	モルモットを用いたマキシマイゼーション試験での陽性の結果（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002））、及び本物質を取り扱う作業者に対するパッチテストで陽性の結果がみられたとの報告等（NITE初期リスク評価書（2005）、SIDS（2002）、ACGIH（7th, 2001））から、皮膚感作性があると考えられる。さらに、本物質は、EU DSD分類において「R43」、EU CLP分類において「Skin Sens. 1 H317」に分類されている。以上の情報に基づき区分1とした。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
皮膚感作性	モルモットの皮膚感作性試験 (ビューラー法) では、2週間後の誘発では陰性であったが、3週間後の再誘発では20例中14例に軽度の紅斑がみられ、1例に軽度の浮腫が認められたころから、弱い感作性が示唆された (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))。一方、その他のモルモット皮膚感作性試験 (ビューラー法) では陰性であった (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))。また、ボランティアによるヒトのパッチテストでは28人を対象としたパイロット試験および76人を対象とした本試験のいずれも皮膚反応は認められなかった (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012))。相反する結果が得られていることから分類できないとした。

生殖細胞変異原性 : データなし

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
生殖細胞変異原性	【分類根拠】(1)、(2) より、証拠の重み付けに基づき、ガイダンスにおける分類できないに相当し、区分に該当しない。【根拠データ】(1) in vivoでは、単回腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性と陽性の報告がある (SIDS (2016))。(2) in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験及び遺伝子突然変異試験で陰性の報告がある (SIDS (2016)、NTP DB (Access on September 2019)、REACH登録情報 (Access on November 2019))。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
生殖細胞変異原性	分類ガイダンスの改訂により、「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、In vivoでは、マウスの骨髄細胞を用いる小核試験で陰性である（NITE初期リスク評価書（2005）、環境省リスク評価第11巻（2013）、SIDS（2002））。さらに、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞を用いる遺伝子突然変異試験及び染色体異常試験で陰性である（NITE初期リスク評価書（2005）、環境省リスク評価第11巻（2013）、SIDS（2002））。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
生殖細胞変異原性	In vivoでは、ラット骨髄細胞の染色体異常試験で陰性 (NICNAS (2012)、EU-RAR (2003))、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験で陰性である (NICNAS (2012)、EU-RAR (2003)、NTP DB (Access on July 2016))。以上より、分類できないとした。

発がん性 : データなし

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
発がん性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
発がん性	既存分類がされていないこと、並びに毒性情報はあるが信頼性のある情報がないことから、分類できないとした。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
発がん性	ラット又はマウスに2年間混餌投与した発がん性試験において、肝細胞がんなど肝臓腫瘍の発生頻度の増加がみられたが、ペルオキシソーム増殖によるものと考えられている (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012)、PATTY (6th, 2012))。DEHP (フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)) を用いた研究からペルオキシソーム増殖を介する機序による肝臓腫瘍誘発はげっ歯類特異的な現象でヒトでは生じないと考えられている (EU-RAR (2003))。また、Fischer 344 ラットを用いた2つの2年間混餌投与試験で単核細胞白血病 (MNCL) が認められたが、MNCLはこの系統のラットでよく生じる腫瘍で、IARCがMNCLをヒトで対応する白血病型が不明の分類不能の白血病としており、ヒトへの外挿可能性は低いと結論されている (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012)、PATTY (6th, 2012))。この他、雄ラットの1試験で腎尿細管腫瘍がみられたが、α2uグロブリン介在性の機序によるもので、ヒトには当てはまらないとされている (EU-RAR (2003)、NICNAS (2012)、PATTY (6th, 2012))。以上、実験動物では肝臓、腎臓の腫瘍、及び白血病が認められたが、いずれも実験動物特異的でヒトには当てはまらないと考えられている。すなわち、本物質のヒト発がん性については依然不明であり、本項は分類できないとした。
NOAEL (慢性、経口、動物/オス、2年)	88.3 mg/kg BW Animal: rat, Animal sex: male, Guideline: EPA OTS 798.3300 (Carcinogenicity), Remarks on results: other:Effect type: toxicity (migrated information)
NOAEL (慢性、経口、動物/メス、2年)	108.6 mg/kg BW Animal: rat, Animal sex: female, Guideline: EPA OTS 798.3300 (Carcinogenicity), Remarks on results: other:Effect type: toxicity (migrated information)

生殖毒性 : 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
生殖毒性	【分類根拠】(1) より、区分2とした。【根拠データ】(1) ラットを用いた強制経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験 (OECD TG 422) において、親動物に一般毒性 (胃の筋肉組織の空胞化、肝臓の小葉中心性空胞化、骨格筋の筋線維の空胞変性、眼の虹彩の立方上皮の空胞化等) がみられる用量で生殖発生影響 (着床痕数の減少、妊娠率の低下、児の生存率の低下等) がみられている (SIDS (2016))。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
生殖毒性	NITE初期リスク評価書（2005）及び環境省リスク評価第11巻（2003）の記述から、ラットにおける生殖発生毒性試験（OECD TG 421）において、親動物に他の毒性作用がみられない用量下で生殖発生への影響（妊娠期間の延長、胚・胎児死亡の増加など）がみられていることから、分類ガイダンスに従い、区分1Bに分類した。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
生殖毒性	【分類根拠】本物質は、o-フタル酸のC9 を中心としたC8～C10 分岐鎖ジアルキルエステルの混合物であり、3種類のDINP（DINP-1（CAS登録番号:68515-48-0）、DINP-2及びDINP-3（CAS登録番号:28553-12-0））が存在するが、（１）より、3種を区別せずに分類に利用した。（２）～（９）より、受胎能への有害影響はみられなかったが、発生影響として主に骨格・内臓変異、雄児の精子及び生殖器の発達障害や、親動物の一般毒性用量で体重低値、出生率及び生存率の低下がみられたことから区分2とした。なお、旧分類の分類時点ではEUでは区分1Bが提案されていたが、その後RACは区分に該当しない判断を公表したことから、生殖毒性を検討して見直したが分類結果に変更はない（2022年度）。【根拠データ】（１）DINP-1（CAS登録番号：68515-48-0）、DINP-2（CAS登録番号：28553-12-0）及びDINP-3（CAS登録番号：28553-12-0）について、比較可能な試験結果などから、動物体内において毒性学的影響に大きな差異がなく、3 種を区別せずに評価することが適当と判断した。（食安委 器具・容器包装評価書 (2015)）（２）DINP（CAS登録番号:68515-48-0）について、ラットを用いた混餌投与による一世代生殖毒性試験において、F0雌雄親動物に体重低下及び精巣重量増加/卵巣重量減少がみられる高用量では、F1の出生率減少、授乳期（生後4、14日）及び離乳時（生後21日）の生存率低下がみられたとの報告がある（食安委 器具・容器包装評価書 (2015)、EU CLP CLH (2018)、NICNAS PEC (2012)）。（３）DINP（CAS登録番号:68515-48-0）について、ラットを用いた混餌投与による二世代生殖毒性試験において、F0及びF1雌雄親動物に肝臓組織変化（肝細胞肥大、細胞質好酸性化）がみられる低用量以上でF0及びF1雌親動物に一腹当たりの産児数の増加、及びF1児動物の体重低値、F0雌雄親動物に腎臓重量増加（雄）又は肝臓重量増加（雌）が中用量以上でF2雌雄児動物に体重低値がみられた。なお、高用量群のF0雌及びF1雌雄親動物に体重低下がみられたとの報告がある（食安委 器具・容器包装評価書 (2015)、EU CLP CLH (2018)、NICNAS PEC (2012)）。（４）DINP-1（CAS登録番号：68515-48-0）について、ラットの妊娠6～15日に強制経口投与した発生毒性試験では、母動物毒性（摂餌量減少、膣出血、腎臓相対重量増加等）がみられる高用量で、一腹当たりの変異を有する胎児の割合の増加、骨格変異（痕跡過剰頚肋、第14過剰腰肋）、腎盂拡張がみられ
NOAEL(動物/メス、F1)	200 – 260 mg/kg BW Animal: rat, Animal sex: female, Guideline: other:EC Dangerous Substances Directive (67/548/EEC), Annex V, Part B; 1987, Guideline: EPA OTS 798.4700 (Reproduction and Fertility Effects)

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害のおそれ (中枢神経系)

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】本物質のヒトでの単回ばく露に関する報告はない。実験動物での (1) の情報より、区分2 (中枢神経系) とした。【根拠データ】(1) ラットの単回経口投与試験において、雄の562 mg/kg以上、雌の398 mg/kg以上 (いずれも区分2相当) で立毛、痙攣、嗜眠、昏睡がみられたとの記述がある (SIDS (2016)、REACH登録情報 (Access on October 2019))。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質のヒトでの単回ばく露のデータはない。動物実験では、ラットに区分2のガイダンス値範囲を超える非常に大量の本物質を経口投与した後に、健康状態の不良、呼吸困難、外見の変化 (立毛と被毛の汚れなど) がみられたが、死亡例はなく、剖検でも異常は認められなかった (EU-RAR (2003))。また、ウサギに区分2のガイダンス値範囲を超える量の経皮投与により、皮膚の紅斑がみられたが、全例が生存し、全身毒性症状も認めらなかった (EU-RAR (2003))。さらに、ラットを用いた区分2のガイダンス値範囲内の用量の急性吸入ばく露試験では、軽度の流涙と鼻汁が認められた以外には、体重減少や肉眼的病変はみられず、肺、肝臓、腎臓の顕微鏡観察による異常所見もみられなかった (EU-RAR (2003))。以上より動物実験における本物質の影響は非常に大量の本物質にばく露された場合にのみ認められる。したがって分類できないとした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (腎臓, 中枢神経系, 眼, 肝臓, 筋肉, 消化管) (経口)

Formaldehyde, polymer with benzenamine, hydrogenated (135108-88-2)	
NOAEL (経口、ラット、90日)	15 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 407 (Repeated Dose 28-Day Oral Toxicity Study in Rodents)

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	【分類根拠】(1) より、区分2 (中枢神経系、眼、肝臓、筋肉、消化管) とした。【根拠データ】(1) ラットを用いた反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験 (OECD TG 422) の結果、50 mg/kg/day (90日換算: 雄: 20 mg/kg/day; 雌; 27 mg/kg/day、区分2の範囲) 以上の雌雄で臨床所見 (円背位姿勢、黄色便、立毛、削痩、眼瞼下垂、嗜眠、紅涙、ラ音等)、ASTの増加、クレアチニンの減少、胃の筋肉組織の空胞化、小葉中心性の肝細胞の空胞化、骨格筋の変性、虹彩の立方上皮の空胞化等、100 mg/kg/day (90日換算: 雄: 40 mg/kg/day; 雌; 53 mg/kg/day、区分2の範囲) で脳への影響 (脈絡叢の空胞化) がみられた (SIDS (2016))。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについては、本物質との関連性が明確な情報はない。実験動物については、ラット、マウス、イヌ、サルを用いた経口経路での反復投与毒性試験等が複数実施され、肝臓、腎臓、精巣等の病変が報告されているが、区分2の範囲内で分類根拠となる毒性影響はみられていない (NICNAS (2012)、食品安全委員会 (2015)、EU-RAR (2003))。したがって、分類できないとした。
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90日)	約 500 mg/kg BW Animal: rabbit

誤えん有害性 : データなし

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
動粘性率	84.211 mm²/s

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。なお、40℃付近での動粘性率が37 mm2/sec (37.8℃)とのデータがある (HSDB (Access on July 2016))。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般 : 長期継続的影響によって水生生物に有害。
水生環境有害性　短期（急性） : 水生生物に毒性
水生環境有害性　長期（慢性） : 長期継続的影響によって水生生物に有害

Formaldehyde, polymer with benzenamine, hydrogenated (135108-88-2)	
LC50 - 魚 [1]	63 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Poecilia reticulata [static] Source: ECHA)
EC50 - 甲殻類 [1]	15.4 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	43.94 mg/l Test organisms (species): Desmodesmus subspicatus (previous name: Scenedesmus subspicatus)
BCF - 魚 [1]	(>18 - <22)
n-オクタノール/水分配係数	2.68 (at 21 °C (at pH 12.5)

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
水生環境有害性　短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）48時間EC50 = 6.84 mg/L（SIDS, 2016、環境省リスク評価第15巻, 2017）であることから、区分2とした。
水生環境有害性　長期（慢性）	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性がなく（BIOWIN）、急性毒性区分2であることから、区分2とした。
LC50 - 魚 [1]	> 100 mg/l Test organisms (species): Leuciscus idus
LC50 - 魚 [2]	68 mg/l Test organisms (species): Leuciscus idus
EC50 - 甲殻類 [1]	7.07 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	6.84 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	140 – 200 mg/l Test organisms (species):
EC50 72h - 藻類 [2]	141.42 – 200 mg/l Test organisms (species):
LOEC (慢性)	7.2 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna Duration: '21 d'
NOEC (慢性)	4 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna Duration: '21 d'
NOEC 魚 慢性	> 1 mg/l Test organisms (species): other:freshwater fish
n-オクタノール/水分配係数	2.2 (at 23 °C (at pH 11)

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
水生環境有害性　短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）において48時間EC50 =16 mg/L（SIDS, 2002）から、区分3とした。

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
水生環境有害性　長期（慢性）	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（BODによる分解度：0%（既存点検, 1982））、甲殻類（オオミジンコ）の21日間NOEC = 5.6 mg/L（SIDS, 2002）であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく（BODによる分解度：0%（既存点検, 1982））、魚類（ウグイ）の96時間LC50 = 248 mg/L（SIDS, 2002）であることから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	248 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Poecilia reticulata [static] Source: IUCLID)
LC50 - 魚 [2]	1014 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Poecilia reticulata [semi-static] Source: EPA)
EC50 - 甲殻類 [1]	16 mg/l (Exposure time: 48 h - Species: Daphnia magna)
EC50 72h - 藻類 [1]	1164 mg/l (Species: Pseudokirchneriella subcapitata)
EC50 96h - 藻類 [1]	345.6 mg/l (Species: Pseudokirchneriella subcapitata)
EC50 96h - 藻類 [2]	592 mg/l (Species: Desmodesmus subspicatus)
NOEC 甲殻類 慢性	5.6 mg/l
BCF - 魚 [1]	(>2.8 - <=6.3 (whole body w.w.)
n-オクタノール/水分配係数	-1.3

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
水生環境有害性　短期（急性）	甲殻類（オオミジンコ）48時間EC50 ≧ 0.086 mg/L、魚類（ファットヘッドミノー）96時間LC50 ≧ 0.14 mg/L（いずれもEU-RAR, 2003）であることから、区分に該当しないとした。
水生環境有害性　長期（慢性）	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。難水溶性であるが、急速分解性がある（BODによる分解度：74%（METI既存点検結果, 2001））ことから、区分に該当しないとした。
LC50 - 魚 [1]	> 100 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Brachydanio rerio [semi-static])
LC50 - 魚 [2]	> 0.14 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Lepomis macrochirus [flow-through])
EC50 - 甲殻類 [1]	> 500 mg/l (Exposure time: 48 h - Species: Daphnia magna)
EC50 - 甲殻類 [2]	> 0.06 mg/l (Exposure time: 48 h - Species: Daphnia magna [Static])
EC50 72h - 藻類 [1]	> 500 mg/l (Species: Desmodesmus subspicatus)
EC50 96h - 藻類 [1]	> 1.8 mg/l (Species: Pseudokirchneriella subcapitata [static])
BCF - 魚 [1]	(183.8 dimensionless)
n-オクタノール/水分配係数	8.8 – 9.7 (at 25 °C (at pH 4.6)

残留性・分解性

ARC HT-T (Part B)	
残留性・分解性	決定していない。

Formaldehyde, polymer with benzenamine, hydrogenated (135108-88-2)	
残留性・分解性	急速分解性あり

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
残留性・分解性	急速分解性あり

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
残留性・分解性	急速分解性あり

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
残留性・分解性	急速分解性あり

生体蓄積性

ARC HT-T (Part B)	
生体蓄積性	決定していない。

Formaldehyde, polymer with benzenamine, hydrogenated (135108-88-2)	
BCF - 魚 [1]	(>18 - <22)
n-オクタノール/水分配係数	2.68 (at 21 °C (at pH 12.5)

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
n-オクタノール/水分配係数	2.2 (at 23 °C (at pH 11)

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
BCF - 魚 [1]	(>2.8 - <=6.3 (whole body w.w.)
n-オクタノール/水分配係数	-1.3

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
BCF - 魚 [1]	(183.8 dimensionless)
n-オクタノール/水分配係数	8.8 – 9.7 (at 25 °C (at pH 4.6)

土壌中の移動性

ARC HT-T (Part B)	
土壌中の移動性	データなし

Formaldehyde, polymer with benzenamine, hydrogenated (135108-88-2)	
n-オクタノール/水分配係数	2.68 (at 21 °C (at pH 12.5)

4,4'-メチレンビス(シクロヘキサンアミン) (1761-71-3)	
n-オクタノール/水分配係数	2.2 (at 23 °C (at pH 11)

ジエチレントリアミン (111-40-0)	
n-オクタノール/水分配係数	-1.3

フタル酸ジノニル (28553-12-0)	
n-オクタノール/水分配係数	8.8 – 9.7 (at 25 °C (at pH 4.6)

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : データなし

その他の有害な影響

その他の情報 : その他の影響は知見されていない。

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分 : 廃棄前に樹脂と硬化剤を混合すること。完全に硬化した後は、本製品は非危険物とみなされ、密閉容器に入れて適切な許可を受けた埋立処分施設で廃棄することができる。未反応成分は特別管理廃棄物として分類され、適切な施設で焼却処理することができる。

14. 輸送上の注意

UN RTDG / IMDG / IATAに準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号 (UN RTDG) : 2735
正式品名 (UN RTDG) : アミン類（液体）（腐食性のもの）（他に品名が明示されているものを除く。）（脂環式アミン）
容器等級(UN RTDG) : III
輸送危険物分類（UN RTDG） : 8
危険物ラベル (UN RTDG) : 8

クラス (UN RTDG) : 8
少量危険物 (UN RTDG) : 5L
微量危険物 (UN RTDG) : E1
包装指令 (UN RTDG) : P001、IBC03、LP01
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/要件 (UN RTDG) : T7
ポータブルタンク及びバルクコンテナ/特別要件 (UN RTDG) : TP1、TP28

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG) : 2735
正式品名 (IMDG) : AMINES, LIQUID, CORROSIVE, N.O.S. (cycloaliphatic amine)
容器等級(IMDG) : III
輸送危険物分類 (IMDG) : 8
危険物ラベル (IMDG) : 8

クラス(IMDG) : 8
特別規定 (IMDG) : 223、274

安全データシート

ARC HT-T (Part B)

JIS Z 7253 : 2019に準拠

少量危険物(IMDG)	:	5 L
微量危険物(IMDG)	:	E1
包装要件(IMDG)	:	P001、LP01
IBC包装要件(IMDG)	:	IBC03
ポータブルタンク包装規定 (IMDG)	:	T7
輸送特別規定-タンク(IMDG)	:	TP1、TP28
緊急時計画番号(火災)	:	F-A
緊急時計画番号(流出)	:	S-B
積載区分 (IMDG)	:	A
隔離(IMDG)	:	SGG18 、SG35
特性および観察結果（IMDG）	:	Colourless to yellowish liquids or solutions with a pungent odour. Miscible with or soluble in water. When involved in a fire, evolve toxic gases. Corrosive to most metals, especially to copper and its alloys. Reacts violently with acids. Cause burns to skin, eyes and mucous membranes.
緊急時応急措置指針番号	:	153

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA)	:	2735
正式品名 (IATA)	:	Amines, liquid, corrosive, n.o.s. (cycloaliphatic amine)
容器等級 (IATA)	:	III
輸送危険物分類 (IATA)	:	8
危険物ラベル (IATA)	:	8

クラス (IATA)	:	8
PCA微量危険物(IATA)	:	E1
特別管制区(PCA)少量危険物(IATA)	:	Y841
特別管制区(PCA)数量限定物の最大積載量(IATA)	:	1L
PCA包装要件(IATA)	:	852
特別管制区(PCA)最大積載量(IATA)	:	5L
CAO包装要件(IATA)	:	856
貨物機専用(CAO)最大積載量 (IATA)	:	60L
特別規定(IATA)	:	A3、A803
ERGコード (IATA)	:	8L

海洋汚染物質	:	該当
特別な輸送上の注意	:	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質

IBC コード	:	非該当

国内規制

海上規制情報	:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	:	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	:	153
その他の情報	:	規制されていない.

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～第３号、安衛則第３０条別表第２）
【改正後 令和９年４月１日以降】
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～第３号、安衛則第３０条別表第２）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２）
ビス（４－アミノシクロヘキシル）メタン （別表の番号 : 1570） (50 ~ 60%)
ジエチレントリアミン （別表の番号 : 731） (5%未満)
フタル酸ジイソノニル （別表の番号 : 1708） (5%未満)
【改正後 令和９年４月１日以降】
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２）
ビス（４－アミノシクロヘキシル）メタン （別表の番号 : 1570） (50 ~ 60%)
ジエチレントリアミン （別表の番号 : 731） (5%未満)
フタル酸ジイソノニル （別表の番号 : 1708） (5%未満)
皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（安衛則第５９４条の２第１項、令和４年５月３１日基発０５３１第９号、令和７年１１月１８日告示第３０１号・第１号、厚生労働省ＨＰ皮膚等障害化学物質の一覧）
皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質（安衛則第５９４条の２第１項、令和４年５月３１日基発０５３１第９号、令和７年１１月１８日告示第３０１号・第２号、令和７年１１月１８日基発１１１８第２号、厚生労働省ＨＰ皮膚等障害化学物質の一覧）

毒物及び劇物取締法 : 劇物（指定令第２条）
Ｎ－（２－アミノエチル）エタン－１，２－ジアミン及びこれを含有する製剤 (5%未満)

消防法 : 第４類引火性液体、第三石油類非水溶性液体（法第２条第７項危険物別表第１）

海洋汚染防止法 : 有害液体物質（Ｙ類物質）（施行令別表第１）
査定物質（Ｙ類同等の有害液体物質）（環境省告示）

外国為替及び外国貿易法 : 輸入貿易管理令第４条第１項第２号輸入承認品目「２の２号承認」
輸出許可貨物・補完品目（キャッチオール規制）（法第４８条第１項、輸出令第１条別表第１の１６の項（２））
輸出承認貨物・特定有害廃棄物等（法第４８条第３項、輸出令第２条別表第２の３５の２の項）

船舶安全法 : 腐食性物質（危規則第２，３条危険物告示別表第１）

航空法 : 腐食性物質（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）

港則法 : その他の危険物・腐食性物質（法第２１条第２項、規則第１２条、危険物の種類を定める告示別表）

特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法） : 特定有害廃棄物（法第２条第１項第１号イ、平成３０年６月１８日省令第１２号）

16. その他の情報

その他の情報 : なし。

改訂日 : 2026/06/18

作成者 : Nexreg Compliance Inc.
www.Nexreg.com

安全データシート

ARC HT-T (Part B)

JIS Z 7253 : 2019に準拠

免責事項:

弊社は本文書に記載されているステートメント、技術情報、推奨事項は信頼できるものであると確信しておりますが、一切の保証はいたしません。本文書に記載されている情報は、提供されている素材にのみ適用されます。他の素材と組み合わせて使用する場合には適格でない可能性があります。使用者の特定の用途におけるこれらの情報の適格性および完全性を判断するのは、使用者自身の責任となります。